



新人看護師紹介

3階東病棟 松田

伊佐准看護学校・阿久根看護学校を経て、今年の4月から新人看護師として入職しました。まだまだ覚えることも多く大変なこともありますが、忙しい中でも先輩たちの丁寧な指導により責任感とやりがい、看護師として良い刺激を毎日感じています。早く業務に慣れ、個々の患者さんに合った看護を提供できるよう頑張っていきたいと思えます。また、今年から趣味で釣りを始めようかなと思えますので、釣りに詳しい方がいらっしゃいましたらよろしくお願いします。

4階西病棟 橋口

看護師を目指したきっかけは、部活で指の骨折をしたときに当院の看護師さんに対応していただいたときです。私はこれからの学校生活に不安を抱えていましたが、優しく笑顔で対応してくださった看護師さんのおかげで救われました。私も病気やけがで辛い思いをしている方々の支えになれたらと思いました。まだ慣れない日々の中で緊張していますが、先輩方の背中を追いかけていきたいと思えます。一日でも早く看護技術を習得し、患者さんが安心して看護を受けられるよう精進します。

3階東病棟 伊牟田

鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻を卒業し、5月から入職いたしました。安心・安全な看護が提供できるよう、日々研鑽を重ねてまいります。何かと不慣れでご迷惑をおかけすること多いと思えますが、よろしくお願いいたします。



4階東病棟 萩野

先輩方からご指導を頂き学んでいます。学生の頃から看護の観察は「見る」ではなく「観る」だと学んでいましたが、実際に看護師として一緒に仕事していると、先輩方の視点の広さに日々驚かされるばかりです。私の看護観は、患者の側で支えられる看護師になることですが、現在それが全く出来ていない状態です。私も早く「観る」視点を身につけながら患者の側で看護ができる様に学んでいきたいと思えます。

手術室 村木

手術室に配属され、早1カ月が経ちました。手術中は患者さんの命を預かる事の重大さを感じ、知識不足を痛感しています。業務の流れ、器械の種類など覚える事がたくさんあり精一杯の毎日ですが、先輩たちの動きや声掛けを見ながら正確に行動ができるように自分が出来る事を増やしていきたいです。また、手術に対して強い不安を抱えている患者の心理状態を理解し、タッチング、声掛けなどで心理的支援もはれるように努力していきたいと思えます。

<入職者紹介>

3階東病棟 ジュライラ

こんにちは初めまして。私の名前はゴンザレスジュライラマエダです。28歳です。独身ですが子供が2人います。フィリピンから参りました。介護の仕事では、いろいろな分からないことがあります、一生懸命頑張ります。これからよろしくお願いいたします。



3階東病棟 クライン キラ

こんにちは初めまして。私はクラインキラです。22歳です。フィリピンから来ました。介護の仕事は初めてで、たくさん分からない事ありますが、これからよろしくお願いいたします。



新人看護師オリエンテーション講師体験を通して

今年度、エルダーを担当することになりました。先日
の新人オリエンテーションでは、酸素療法や吸引・ネブライ
ザーの講義と演習を行いました。エルダーの先輩と何度も
指導案やパワーポイントの確認を行いながら練習を重ね、
教育の難しさや奥深さを実感しました。

今の新人看護師はコロナ禍で学生生活を過ごしており、
授業や実習に制限がある中で看護師となっているため、私
たちの新人の頃とは違う不安を抱えている部分もあるか
と思います。初めは慣れないことやわからないことばかりで
大変だと思いますが、新人の看護観を大切にしながら目指
す看護師像に近づけるように関わっていきたいです。



4階西病棟 福永



今回新人オリエンテーションを通して薬剤の投与方法
や記録の記載方法、6Rについて等再確認することができ
ました。普段の業務で服薬の6Rを確認できていなかったり、
懸濁方法や懸濁できる錠剤、できない錠剤の把握が
曖昧であったり反省点がいくつかありました。投与手順
やマニュアルを確認しないことでインシデントやアクシ
デントに繋がるリスクが高くなることから患者の安全の
ために確認方法は今後も把握しておくべきだと感じまし
た。新人看護師と行動するなかで自分自身も成長できる
よう関わりたいと思います。

4階東病棟 高野

回復期リハビリテーション病棟の退院支援

回復期リハビリテーション病棟 福岡

急性期を脱した患者さんは、リハビリ目的で、回復期リハビリテーション病棟へ
移動します。退院調整カンファレンスでは、多職種(PFM、看護師、セラピスト、
MSW)間で、患者さんの情報を共有し、退院目標(退院予定日とADL)の設定、退院
時支援が必要になる内容を話し合います。患者さんの退院に向けての不安の緩和
や生活上の問題を解決するために、多職種と協働して生活上の問題に対して自立支
援(病棟リハビリの計画、薬の管理方法、疾患の指導内容)、必要時にリハビリ見学
や退院前カンファレンスを開催し、退院支援を行っています。



外来 カテ・アンギオについて紹介

外来 山本

今回外来カテ・アンギオについて紹介させていただきます。
当院は脳外・脳内科 循環器の受け入れをしているため、365日心筋梗塞・脳血管疾
患を受け入れ、緊急で検査・処置を行っています。基本予約検査枠として、脳外→
月・水・金 循環器→火・木となっています。
2022年度は検査総数524件(循環器422件・脳外科96件・放射線科6件)で、うち緊急
111件(時間外59件)内訳は脳外46件(時間外28件)・放射線科6件(時間外2件)・循環器
59件(時間外29件)となっており、循環器の緊急59件中47件PCIが行われ、脳外科で
はコイル塞栓・血栓回収、まれに放射線科でTAE・BAEが行われています。
そのため外来にはカテチームがあり、現在5名うち3名がオンコールを持っており、
更に1名修行中で一人に係る負担を軽減し、365日対応出来るように頑張っています。



2023年度 部署目標



外 来 ～「患者の思いに寄り添い、信頼される外来を運営する」

医療技術部・事務部・診療支援部との共同目標になります。

機能評価では、外来診療はA判定を頂いている。しかし、病状説明後の反応を記録する習慣は定着していないことや内容を熟考する点、看護部のビジョンにあるように、『専門的知識に基づく看護の提供』をもっと高めていく必要があります。このようなことを重点的に取り組み、他職種一致団結して外来運営をしていきます。

手術室 ～「安全・安心な手術室看護の提供」

手術室では、入室時からのストレスフリーな手術室看護を目指しています。

入室時や退出時の手術室スタッフの迎えや送りなど業務拡大や業務の簡素化を図っています。

また、定期手術に加え、緊急手術を受け入れることから、これらに対応するために高い実践スキルとそれを支える学習意欲、チームで活躍できるコミュニケーション能力が必要となります。スタッフ各々がやりがいを持ち、安心して看護実践が出来るためには①手術室看護師としての誇りを持つ ②周術期の多職種チームの中で自己の専門性が発揮できるように教育や風土づくりを行いたいと思います。

3階東病棟 ～「多職種で連携し、良質な医療を提供できる」

急性期病棟の特殊性を活かし、地域医療支援病院の機能を確保しつつ、質の確保を維持していくという大きな役割を果たす為に、医師をはじめ多職種で決めた目標です。

以下の重要課題を意識して取り組んでいきたいと思っています。

<重要課題>①安全な療養環境②チーム医療の推進③専門性の向上④患者・職員の満足度向上

4階東病棟 ～「患者の生活を考えるチーム医療の実践」

今年度は、多職種で病棟目標について話し合いました。

入院当初から退院を意識した関与が重要であると考え、多職種で生活指導を行っていきたいと考え目標設定しました。

①カンファレンスの充実 ② 専門知識の向上 ③多職種連携

以上をチーム活動として取り組み、目標に向けて活動していこうと考えています。

4階西病棟 ～「チーム医療の推進～多職種カンファレンスの充実」

機能評価で指摘があった箇所の改善を第一の課題として、多職種間での話し合いを元に、目標を立案しました。

多職種で、チームとして患者、家族へ適切な援助を実践出来るように、カンファレンスの充実を目標に上げ、ブロックカンファレンス、緩和カンファレンス、倫理カンファレンス等の多職種カンファレンスの開催を定期的に実施することで、よりよい援助を提供できるように計画を立案しました。

①カンファレンスチーム②記録チーム③教育チーム④5Sチームにわけて、各担当を担いながらチーム活動を行う事で、病棟目標達成ができるよう取り組みます。

回復期リハビリテーション病棟 ～「安心・安全・信頼のおける医療の提供」

今年度は病棟看護師の意見と機能評価受審での指摘事項を参考に、医療チームとして取り組めるよう検討しました。

～セル看護の充実と手順に沿った看護の実践～

セル看護提供方式の定着を目指し、患者さんの側で看護実践すること、多職種でのカンファレンスを充実させ、より安全で個別性のあるケアが提供できるように取り組んでいきたいと思っています。回復期看護は、患者さんの社会復帰を支援するためにチーム医療がより重要となります。それぞれの役割を理解し、尊重しながらベストなケアが提供できるようにしていきたいです。

HCU ～「やるべきこと、やれること、やりたいことができる病棟」

～セル看護の充実と手順に沿った看護の実践～

病棟として急性期医療の質を守るために、2022年度の実践を踏まえ、アクシデントレベルはありませんでしたが、手順が守れなかったことでのインシデントが多発。患者の安全を守るためにも手順遵守の看護実践を行っていく必要があると考えました。また、せん妄になる患者や不安を持つ患者が多く、セル看護の患者に寄り添う看護を実践して安心が得られるような援助が行えるようにしていきたいです。

大きく業務と学習の2本柱を立て、スタッフが実践レベルまで到達できるようにしていけるように、質の向上を高めていき2024年度にむけ実践していきます。

PFM ～「つなげる、つながる私たち～院内連携の強化」

PFMでは、入院前から患者の問題点を抽出し、退院支援推進のための多職種との情報共有、目標共有を行ってきました。昨年度同様に院内連携をさらに強化し、それぞれの支援状況を確認しながら、スムーズに療養場所に帰れるように働きかけていきたいと思っています。また、地域医療構想における当院の役割を再認識し、救急医療をスムーズに提供できるよう各部署・職種と協働しながら、病床管理を行っていききたいと思っています。

✓ 病棟便り

HCU副師長 皮籠石

今回はHCU病棟で使われている医療機器について紹介したいと思います。
主に使用される機器はモニター、人工呼吸器、IABP、CHDF、除細動器です。
以前でしたら、病棟で他の患者を見ながら重症の患者を見ていたと思います。HCU開棟後は、重症の患者はHCUで管理を行うようになり、新卒の方や中途採用の方は、医療機器に触れる機会が少なくなったと思います。

現在、人工呼吸器は980タイプを使用しており、院内では1台しかありません。すべてがタッチパネル式の最新の人工呼吸器です。また、IABPやCHDFは2-3症例/年程度ですので、機器が動いているときは興味がある方は是非HCUまで足を運んでください。

院外研修

STROKE2023 第48回日本脳卒中学会学術集会 3/16~18 パシフィコ横浜

4階西病棟 石原

今回脳卒中学会に参加して、脳梗塞や血管内治療、抗血栓薬についてなど、様々な治療や各病院での取り組みについて知ることができ、自分の知らない分野も含め幅広く学ぶ機会になりました。中でも脳卒中と栄養管理についてのセミナーが興味深く、経管栄養の迅速投与に対する試みや、経管栄養開始遅れによる回復遅延を防ぐための看護師主導のアプローチ方法についてなど知ることができました。この研修で学んだことを病棟でも反映できるよう、自己学習していきたいと思っています。

2022年度 学研ナースिंगサポート視聴状況

個人平均視聴時間 5時間23分 (昨年より1時間8分増)



部署の視聴ランキング ベスト5

1. 回復リハビリ病棟
2. 4階東病棟
3. 3階東病棟
4. HCU病棟
5. 4階西病棟



個人視聴テーマ数ランキング

看護師部門 ベスト3

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 3階東病棟 | 八牟禮さん |
| 2. 3階東病棟 | 上城さん |
| 3. 回復リハビリ病棟 | 鍛冶屋さん |

個人視聴テーマ数ランキング

看護補助者部門 ベスト3

- | | |
|-------------|------|
| 1. 4階東病棟 | 北原さん |
| 2. 回復リハビリ病棟 | 増山さん |
| 3. 4階西病棟 | 問覚さん |



編集後記

3月の機能評価受審を終え、新年度となり2カ月が経ちました。皆さんは、どんな1年にしたいと計画を立てたでしょうか。お互いに刺激し合い、成長できる環境作りを目指しましょう。
松下